

研究主題「基礎的・基本的な知識・技能をはぐくむ社会科指導の工夫

—地図・地球儀の効果的活用法—

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
狛江市立狛江第六小学校 教諭 伊藤 修久

I 研究のねらい

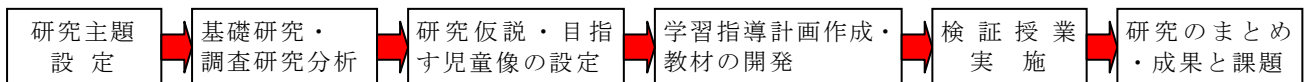
新小学校学習指導要領(以下「新学習指導要領」)における社会科の改訂では、「広い視野から地域社会や我が国の国土に対する理解を一層深め、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付ける」ことが重視されている。

また、国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査(社会)」(平成20年6月公表、以下「国の調査」)では、地図帳の索引を使って地名を確かめる等、基礎・基本としての地図や地球儀の活用が不足しているという課題が明らかになった。

これらのことから、小学校社会科では、児童が地図・地球儀の使い方などの基礎的・基本的な知識・技能を習得して、広い視野から地域社会や我が国の国土に対する理解を一層深めるとともに、主体的に地図・地球儀を活用し、「世界や日本の地理的な事象」を調べていく態度や能力を高めていくような指導の工夫が必要であると考えます。

そこで、本研究では、地図・地球儀の基本的な知識・技能を明確にした「地図・地球儀活用表」の作成及び地図・地球儀活用能力の向上を系統的に図るための教材(以下「地図・地球儀ワークシート」)を作成し、それらを有効に活用した指導方法を明らかにすることとした。

II 研究の内容と方法



1 研究の仮説と目指す児童像

研究の仮説 地図・地球儀の活用を意図的・計画的に指導計画に組み入れ、繰り返し指導すれば、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、日常的に地図・地球儀を活用し、広い視野から国土に対する理解を深める児童が育つであろう。

目指す児童像 地図・地球儀の知識・技能を習得し、活用することができる児童

2 基礎研究・調査研究・開発研究

(1) 基礎研究

中央教育審議会答申及び新学習指導要領等の分析を行った。また、国の調査では、資料活用から思考、判断、表現する能力を高める課題、特に、地図・地球儀の活用不足に関する課題が明らかになった。地図・地球儀の活用に関する基礎的・基本的な知識・技能を意図的・計画的に指導する重要性を再認識した。

(2) 調査研究

児童の地図・地球儀の活用状況と教師の指導状況を把握するために、国の調査及び都内公立小学校(調査児童数330名、教員数17名)で行った「社会科アンケート(国の調査に準じた内容)」の分析と考察を行った。その結果、同校においても国の調査結果と同様に、教師は地図帳や地球儀を使って指導し、児童に活用させようという意識が高いが、児童は十分に活用している意識が低いという状況が明らかになり、教師と児童の認識に違いが見られることが分かった。

(3) 開発研究

基礎研究及び調査研究を基にして、教師と児童が地図帳や地球儀を一層活用できるようにするために、以下の3点で教材等を開発した。

① 基礎的・基本的な知識・技能を明確にした「地図・地球儀活用表」の作成

教師が指導する際、地図・地球儀の基礎的・基本的な知識・技能を明確にするために、新学習指導要領解説社会編(平成20年8月)から指導内容を知識(基礎的・基本的な語句)と技能(地図・地球儀の使い方)に分けて、「地図・地球儀活用表」(表1)を作成した。

単元名	知識(基礎的・基本的な語句)	技能(地図・地球儀の使い方)	学習の仕方	主に活用する教具
「身近な地域や市(区、町、村)の様子」	「自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)」 自分たちが通う学校の周りの地域や自分たちの住んでいる市	地図記号・四方位・八方位を使って、身近な地域の絵地図から平面地図に表すことができる。	絵地図や地図記号を使った平面地図にまとめる活動	市(区、町、村)の地図・鳥瞰図・立体地図・空中(航空)写真、市(区、町、村)の地図
			地図・地球儀ワークシートNo.1 四方位・八方位	
	「身近な地域や市(区、町、村)の特色ある地形」 土地の低いところや高いところ、広々と開けた土地や山々に囲まれた土地、川の流れているところや海辺に面したところ等	自分たちの住んでいる身近な地域や市の具体的な様子を調べることができる。	白地図に書き表す活動	等高線の入った市(区、町、村)の地図
			地図・地球儀ワークシートNo.2 縮尺	
	「土地利用の様子」 田や畑の広がり、住宅や商店、工場の分布	身近な地域や市(区、町、村)で生活している人々がその地域の土地をどのように利用しているのかを具体的に調べることができる。		土地利用図の入った市(区、町、村)の地図
			地図・地球儀ワークシートNo.3 地図記号(地形・土地利用・公共施設・交通・古くから残る建造物)	
	「主な公共施設などの場所と働き」 身近な地域や市(区、町、村)で生活している人々が利用する主な公共施設	主な施設の名称と位置、働きなどを調べることができる。		公共施設の入った市(区、町、村)の地図
	「交通の様子」 身近な地域や市(区、町、村)で生活している人々などが利用している主な道路や鉄道	主な道路や鉄道の名称や主な経路などを具体的に調べることができる。		交通の入った市(区、町、村)の地図
	「古くから残る建造物」 身近な地域や市(区、町、村)に古くから残る建造物	身近な地域や市(区、町、村)に古くから残る建造物を取り上げ、その位置や昔の様子などを調べることができる。		建造物の入った市(区、町、村)の地図
			地図・地球儀ワークシートNo.4 方位と地図記号	

② 「地図・地球儀ワークシート」の作成

「地図・地球儀活用表」に示した「知識」と「技能」を系統的に身に付けさせるために、「地図・地球儀ワークシート」(表2・図1)を作成した。新学習指導要領を基に学年に対応した「地図・地球儀ワークシート」を使うことで、系統的に地図・地球儀の知識・技能を習得させることができると考えた。

表2 地図・地球儀ワークシートの種類

No.	内容	学年
No. 1	「四方位・八方位」	第3学年
No. 2	「縮尺」	第3学年
No. 3	「地図記号」	第3学年
No. 4	「方位と地図記号」	第3学年
No. 5	「地図帳のさくいんを使った調べ方」	第4学年
No. 6	「47都道府県」	第4学年
No. 7	「等高線」	第4学年
No. 8	「地球儀を使った調べ方」	第5学年

地図・地球儀ワークシートNo.8—D
 (「地球儀を使った調べ方」)
 年 組 名前 ()

地球儀の使い方について

① 地球儀において、たての線を()といいます。

横の線を()といいます。

緯線 赤道に平行な線です。赤道を0度として、北極と南極までをそれぞれ90度に分けます。赤道から北は、北緯、南は、南緯といいます。

経線 北極と南極を結んだ線です。イギリスのロンドン、グリニッジを通る経線を0度として、東に180度(東経)、西に180度(西経)に区切られています。

② また、位置を表すのに**緯度・経度**で表すことができます。

経度と緯度を用いると地球上の位置を表すことができます。

東京は、およそ北緯()度、東経()度です。

図1 地図・地球儀ワークシート例

③ 地図・地球儀の活用を重視した「年間指導計画」の作成

新学習指導要領に基づき以下のように「地図・地球儀の活用を重視した小学校社会科年間指導計画例」(表3)を作成した。第3学年では、方位・縮尺・地図記号の学習を単元「身近な地域や市の様子」に位置付け、地図の見方の基礎を養う。第4学年では、4月当初に地図帳のオリエンテーションを2時間、位置付けることにより、地図帳の使い方を学ばせる。さらに、第5学年の単元「世界の国々と日本」を最初に位置付けることで、日本の国土と世界の概略を理解させ、そのことが農業・水産業・工業などの産業学習の単元に生かされるように意図した。その結果、広い視野から国土に対する理解を深めることができると考えた。

表3 地図・地球儀の活用を重視した小学校社会科「年間指導計画」例

	第3学年	内容	第4学年	内容	第5学年	内容	第6学年	内容
一学期	1「身近な地域や市の様子」	(1)ア	1「地図帳のオリエンテーション」	(6)ア	1「世界の国々と日本」	(1)ア	1「日本の歴史」 ・狩猟・採集、農耕の生活、古墳、 国土統一	(1)ア
			2「安全な暮らし」	(4)アイ	2「食料生産と国民生活」	(2)アイウ	・天皇中心の政治と日本風文化 ・武士による政治の始まり	(1)イ (1)ウ
二学期	2「地域の人々の生産や販売」	(2)アイ	3「健康な生活や良好な生活環境」	(3)アイ	3「工業生産と国民生活」	(3)アイウ	・室町文化 ・戦国の世の統一と武士による政治 の安定	(1)エ (1)オ
			4「先人の業績」	(5)ウ	4「情報産業と国民生活」	(4)アイ	・町人の文化 ・明治の近代化 ・国力の充実と国際的地位の向上 ・民主国家の発展と国民生活の向上	(1)カ (1)キ (1)ク (1)ケ
三学期	3「地域の生活の変化」	(5)アイ	5「東京都の様子」	(6)アイウ	5「国土の自然と国民生活」	(1)イウエ	2「わたしたちの生活と政治」 3「世界の中の日本」	(2)アイ (3)アイ

(4) 検証授業の実施

(注) 単元名は、文部科学省ホームページ「新学習指導要領改定案関連資料」より

平成20年10月、都内公立小学校第5学年において検証授業を実施した。小単元「世界の国々と日本」において、「世界の主な大陸と海洋」、「主な国の名称と位置」、「我が国の位置と領土」の内容について、「地図・地球儀活用表」と「地図・地球儀ワークシート」を用いて、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるような学習指導計画を作成した。

児童が意欲的に学習に取り組めるよう、ビニル製の地球儀を活用して、大陸と海洋の面積の比率に注目させたり、六大陸と三海洋の名称と位置を白地図にまとめたり、世界の国々の名称と位置についての問題を作り、児童同士で紹介し合ったりする活動を取り入れた。

表4 第5学年「世界の国々と日本」学習指導計画

	学習活動	知識	技能	指導のポイント
第一時	日本の周りや世界には、どのような大陸や海洋が広がっているかを調べ、白地図にまとめる。	六大陸(ユーラシア大陸・アフリカ大陸・北アメリカ大陸・南アメリカ大陸・オーストラリア大陸・南極大陸)と三海洋(太平洋・大西洋・インド洋)の名称と位置	六大陸や三海洋の名称や位置について方位や緯度・経度を使って表すことができる。	地図や地球儀を使って調べさせ、六大陸や三海洋の名称や位置について方位を使って表すことができるように指導する。
		ワークシートNo. 8 「地球儀を使った調べ方」		
第二時	世界の主な国を取り上げ、その国の名称と位置、国旗を調べ、白地図にまとめる。	世界の主な 18 か国の名称と位置	世界の主な 18 か国の名称や位置について調べることができる。	地図や地球儀を使って、世界の主な国の名称や位置、国旗について調べさせ、白地図に表すことができるように指導する。
第三時	我が国の領土と位置が世界の中でどのように広がっているのか調べ、白地図にまとめる。	北海道・本州・四国・九州・北方領土(択捉島・国後島・歯舞群島・色丹島・沖の鳥島・南鳥島・与那国島)などの主な島の名称と位置	地図を使って、国土を構成する4島や日本の領土の主な島々を調べることができる。	地図を使って、じっくり地図を見させ、我が国の位置や領土について関心をもたせるように指導する。
第四時	世界の主な国と日本の位置関係の問題作りをすることにより確認する。	世界の主な 18 か国の名称と位置	世界の主な 18 か国の名称や位置について、日本を中心として方位や緯度経度等を使って表すことができる。	世界の主な国と日本の位置関係の問題作りをすることで、名称や位置について地図を使って調べさせるように指導する。

Ⅲ 研究の結果と考察

1 児童に習得させるポイントを明確にした「地図・地球儀活用表」

「地図・地球儀活用表」により、授業で教えるべき基礎的・基本的な知識・技能を明確にした結果、教師としては、授業を考える上で見通しをもって授業の組み立てをすることができた。

また、児童が楽しく基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるように、世界の国々の名称と位置についての問題作りをする等の学習活動を工夫した結果、児童の学習意欲が高まった。

2 広い視野から国土を理解するのに有効な「地図・地球儀ワークシート」

地球儀とワークシートを活用することで、「日本の北の国は、ロシア連邦です。」「ユーラシア大陸の東の方は、面積の大きな国が多く、西のほうは、小さな国が多い。」「大きな国や極小の国や知らない国があり、世界にはたくさんの国があることが分かった。」「地球儀を使って日本の東側にある国がチリ（南アメリカ大陸）だということが分かってびっくりした。」等、世界の位置や面積、方位等、児童が空間的な広がりで見ている姿が見られた。

3 地図・地球儀の活用にかかわる児童の変容

児童の変容について考察するために、12月に検証授業後アンケートを実施したところ、以下のようになった。

基礎的・基本的な技能においては、「社会科の学習で出てきた場所の位置を、地図帳の索引を使って確かめるようになった。」という問いに対して、「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した児童は、検証授業前より検証授業後の方が高い割合になった。（図2）

しかし、「テレビや新聞などで外国のニュースを見聞きした時にその国の位置を地図や地球儀で確かめるようになった。」という項目の問いからは、検証授業前と検証授業後の調査は、ほぼ同じ割合になった。（図3）

このことから、日常的に地図・地球儀を活用できるようにするためには、ニュース紹介で地名が出てきたときにすぐに地図帳で調べさせたり、地図や地球儀を教室に置いて確かめさせたりするなど、今後も継続的に取り組む必要がある。

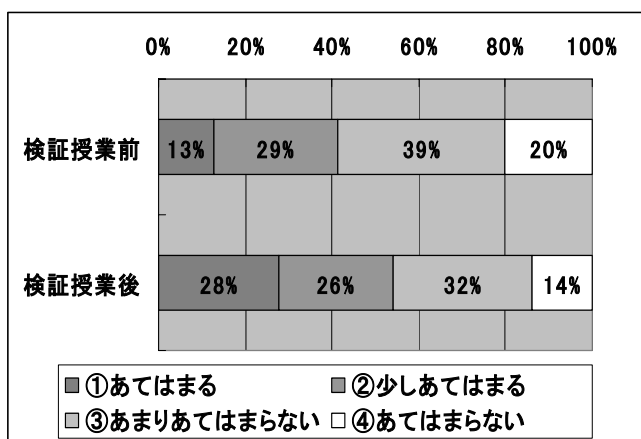


図2 「地図帳の索引を活用する」割合

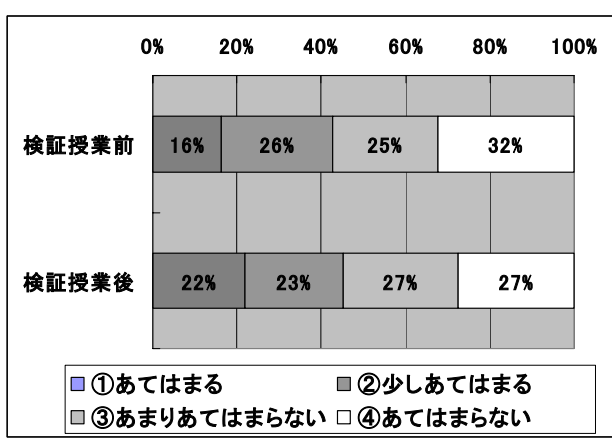


図3 「国の位置を地図や地球儀で確かめる」割合

Ⅳ 今後の課題

- ・ 「地図・地球儀ワークシート」は、児童の反応を参考にして改善を図っていく。
- ・ 地図や地球儀の特性を踏まえた指導を充実するとともに中学校との連携も進めていく。
- ・ 地図・地球儀を重視した「年間指導計画」例に基づいた授業実践を行っていく。

研究主題「基礎的・基本的な知識・技能をはぐくむ社会科指導の工夫

—地図・地球儀の効果的活用法—

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

狛江市立狛江第六小学校 教諭 伊藤 修久

【補助資料1】「地図・地球儀活用表」

第3学年及び第4学年 地図・地球儀活用表—新小学校学習指導要領解説を基に—				
単元名	知識(基礎的・基本的な語句)	技能(地図・地球儀の使い方)	学習の仕方	主に活用する教具
「身近な地域や市(区、町、村)の様子」	「自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)」 自分たちが通う学校の周りの地域や自分たちの住んでいる市	地図記号・四方位・八方位を使って、身近な地域の絵地図から平面地図に表すことができる。	絵地図や地図記号を使った平面地図にまとめる活動	市(区、町、村)の地図・鳥瞰図・立体地図・空中(航空)写真、市(区、町、村)の地図
			四方位・八方位	
	「身近な地域や市(区、町、村)の特色ある地形」 土地の低いところや高いところ、広々と開けた土地や山々に囲まれた土地、川の流れているところや海辺に面したところ等	自分たちの住んでいる身近な地域や市の具体的な様子を調べることができる。	白地図に書き表す活動	等高線の入った市(区、町、村)の地図
			縮尺	
	「土地利用の様子」 田や畑の広がり、住宅や商店、工場の分布	身近な地域や市(区、町、村)で生活している人々がその地域の土地をどのように利用しているのかを具体的に調べることができる。		土地利用図の入った市(区、町、村)の地図
	「主な公共施設などの場所と働き」 身近な地域や市(区、町、村)で生活している人々が利用する主な公共施設	主な施設の名称と位置、働きなどを調べることができる。		公共施設の入った市(区、町、村)の地図
	「交通の様子」 身近な地域や市(区、町、村)で生活している人々などが利用している主な道路や鉄道	主な道路や鉄道の名称や主な経路などを具体的に調べることができる。		交通の入った市(区、町、村)の地図
	「古くから残る建造物」 身近な地域や市(区、町、村)に古くから残る建造物	身近な地域や市(区、町、村)に古くから残る建造物を取り上げ、その位置や昔の様子などを調べることができる。		建造物の入った市(区、町、村)の地図
			方位と地図記号	
「地図帳のオリエンテーション」 「東京都の様子」	「東京都内における自分たちの市(区、町、村)及び我が国における自分たちの東京都の地理的位置」 都内における自分たちの市の位置、国内における自分たちの都の位置地図に掲載されている距離を表す目盛りを用いて二つの地点間の距離を求める方法	隣接する市や県との位置関係や日本全体から見た位置などについて、方位などを用いて言い表すことを通して、自分たちの市や都の位置を広い視野からとらえることができるようにする	地図帳を使って言い表す活動	日本・東京都・市(区、町、村)の地図
	「47都道府県の名称と位置」 我が国が47の都道府県によって構成されていること	都道府県の名称と位置を一つ一つ地図帳で確かめ、日本地図(白地図)上で指摘できるようにする。	・地図帳を使って言い表す活動 ・白地図に書き表す活動	日本・東京都・市(区、町、村)の地図
			47都道府県	
「東京都の様子」	「東京都全体の地形や主な産業の概要」 都全体の主な山地や平地、半島、川、湖、海などの位置や広がり様子と、都全体に見られる主な産業の概要や分布の特色をとらえることができる。	都全体の主な山地や平地、半島、川、湖、海などの位置や広がり様子と、都全体に見られる主な産業の概要や分布の特色をとらえることができる。	白地図に書き表す活動	東京都の地図や立体地図
			等高線	
	「交通網の様子や主な都市の位置」 都内を通る主な道路や鉄道などの交通網、主な港や空港の位置、主な都市の位置	道路や鉄道、都市の位置などを調べ都全体の特色をとらえることができる。	白地図に書き表す活動	東京都の地図や立体地図
	「人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかかわり」 都内の人々の生活や産業は、都内だけでなく、広く国内の他地域や外国とも結び付いていること	都内の人々の生活や産業が、都内や国内の他地域、外国とも結び付いていることを交通網や産業、特色ある地域の人々の生活などの学習と関連付けて取り上げることができる。	・地図帳を使って言い表す活動 ・白地図に書き表す活動	世界・日本・東京都・市(区、町、村)の地図

第5学年 地図・地球儀活用表—新小学校学習指導要領解説を基に—

単元名	知識(基礎的・基本的な語句)	技能(地図・地球儀の使い方)	学習の仕方	主に活用する教具
「世界の国々と日本」	「世界の主な大陸と海洋」 六大陸(ユーラシア大陸、北アメリカ大陸、南アメリカ大陸、アフリカ大陸、オーストラリア大陸、南極大陸)と三海洋(太平洋、大西洋、インド洋)の名称と位置	六大陸や三海洋の名称や位置について方位や緯度・経度を使って表すことができる。	白地図に書き表す活動	地球儀 世界地図
	「世界の主な国の名称と位置」 世界の主な国の名称と位置(近隣の諸国を含めてユーラシア大陸やその周りに位置する国々の中から10か国程度、北アメリカ、南アメリカ、アフリカ、オーストラリアなどの大陸やその周りに位置する国々の中からそれぞれ2か国程度を教師が選択する)	世界の主な18か国の名称や位置について、日本を中心として方位や距離、緯度・経度を使って表すことができる。		地球儀 世界地図 国旗
	「我が国の位置と領土」 我が国の国土を構成する北海道、本州、四国、九州、沖縄島、北方領土などの主な島の名称と位置、我が国の領土の北端、南端、東端、西端、日本列島の周りの海	国土を構成する4島や日本の領土の主な島々の位置関係を方位や距離、緯度・経度を使って表すことができる。		日本地図 地球儀
「国土の自然と国民生活」	「国土の地形や気候の概要」 国土の主な山地や山脈、平野、川などの地形や地域による気温と降水量の違いなどの気候の概要	国土の主な山地や山脈、平野、川などの地形を一つ一つ地図帳で確かめ、日本地図(白地図)上で指摘できるようにする。	・地図帳を使って指摘できるようにする。 ・白地図に書き表す活動	日本地図
	「自然条件から見て特色ある地域の人々の生活」 地形条件や気候条件から見て特色ある地域を取り上げ、自然環境に適応しながら生活している人々の工夫	地形や気候に合わせた住まいや学校生活などの日常生活の様子、地形や気候の特色を生かした野菜や果物、花卉の栽培、酪農、観光などの産業を調べることができる。	・地図帳を使って指摘できるようにする。 ・白地図に書き表す活動	日本地図

地図・地球儀ワークシート№8 地球儀を使った調べ方

第6学年 地図・地球儀活用表—新小学校学習指導要領解説を基に—

単元名	知識(基礎的・基本的な語句)	技能(地図・地球儀の使い方)	学習の仕方	主に活用する教具
「世界の中の日本」	我が国の国際交流や国際協力の様子、国際連合の働きについての学習は、ややもすると網羅的、抽象的になりがちである。ここでは、具体的事例を取り上げ、調査や資料の活用を中心とした学習が展開できるようにする。	地図や地球儀の活用については、地図帳や地球儀を用いて我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の名称と位置を確認したり、日本から見た方位などを調べたりすることを通して、地図帳や地球儀を活用する能力を育てる	地図帳を使って指摘できるようにする。	地球儀 世界地図 日本地図

(地図帳や地球儀の取扱いについて)

- ◆第4学年から使われる地図帳は、社会的事象を適切に見たり考えたりする能力を育てるために必要な教材である。
- ◆地図帳は、地名や国名等の位置を確認することができるだけでなく、社会的事象の様子や関係、自然環境とのかかわりなどを調べることもできる。こうした活用の仕方を身に付けるとともに、地図帳を日常的に活用し、地図帳への親しみをもたせ、問題解決のための教材として効果的に活用する知識や能力を育てるようにすることが大切である。
- ◆地図帳は、第4学年から第6学年までの各学年で使用されるものであるが、地図帳の内容構成を理解できるようにすることが大切である。また、社会科の学習を進める上で大切な教科用図書であることや、社会科だけではなく他の教科等の学習や家庭などにおいても活用することが大切であることを指導するようにする。
- ◆地球儀は、広い視野から国土に対する理解を深めさせることができる教具である。活用の仕方について指導し、地球儀を活用できる知識や能力を身に付けるようにすることが大切である。

【補助資料2】第5学年「世界の国々と日本」 第1時の授業分析

第1時 六大陸と三海洋 (「世界の国々と日本」)

本時のねらい 六大陸と三海洋や我が国の位置について地図帳や地球儀を正しく用いて、調べたり、考えたりしたことを表現することができる。

	学習活動	知識	技能	指導のポイント
第一時	日本の周りや世界には、どのような大陸や海洋が広がっているかを調べ、白地図にまとめる。	六大陸(ユーラシア大陸・アフリカ大陸・北アメリカ大陸・南アメリカ大陸・オーストラリア大陸・南極大陸)と三海洋(太平洋・大西洋・インド洋)の名称と位置 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ワークシートNo. 8「地球儀を使った調べ方」</div>	六大陸や三海洋の名称や位置について方位や緯度・経度を使って表すことができる。	地図や地球儀を使って調べさせ、六大陸や三海洋の名称や位置について方位や緯度・経度を使って表すことができるように指導する。

学習活動1 ビニル製の地球儀をキャッチして右手の小指の触れたところが「陸地」か「海洋」かを確かめる活動を行う。

【教師の意図】この活動は、第5学年で最初に地球儀を活用する場面に取り入れる。ビニル製地球儀という軽くて透明な地球儀を使うことで、地球儀に親しみやすくすることと、手にとって見ることができるので南半球までじっくり見ることができるよさがある。

また、ビニル製地球儀をキャッチすることで、大陸：海洋が3：7になるという事実を地図帳で調べる活動を通して、六つの大陸や三つの海洋を初めて意識させるのに効果的な方法であると考えた。



【児童の反応】

- ・海洋の部分が透明になっていることに気付いた。
- ・陸地より、海洋部分が多いことに気付いた。



【考察】ビニル製の地球儀を使うことによって、児童の意欲が高まった。また、陸地が海洋よりずいぶん少ないことに気が付いた。

学習活動2 日本の真東は、どこの大陸になるのか、地球儀で調べる活動。

【「地図・地球儀ワークシートNo.8 地球儀を使った調べ方」を活用する取組み】

【教師の意図】この活動では、「地図・地球儀ワークシート」を活用することで、地球儀の使い方の技能を高めようと考えた。その際、緯線・経線、方位、距離、緯度・経度を押さえ、今後の地図・地球儀を活用する際に活用できるようにした。

そして、六大陸(ユーラシア大陸・アフリカ大陸・北アメリカ大陸・南アメリカ大陸・オーストラリア大陸・南極大陸)について名称と位置を確認させた。

また、地球儀の方位の測り方を理解させ、紙テープを使い、日本を中心に垂直に地球儀に巻かせ、方位や距離の認識をさせたいと考えた。

【児童の反応】

- ・「日本の真東が南アメリカ大陸だということは、知らなかった。いろんなことを知ることができてよかった。」
- ・「地球儀を使って日本の東側にある国がチリだということが分かってびっくりしました。」
- ・「日本の北の国は、ロシア連邦です。」
- ・「ユーラシア大陸の東の方は、面積の大きな国が多く、西のほうは、小さな国が多い。」
- ・「今日の授業は、地球儀を使ったりして、とてもおもしろかったです。特に、大陸を調べている時、小さいいろいろな国を見つけられて、改めていろいろな国があるんだなあと思いました。」



【考察】緯線・経線、方位、緯度・経度等を「地図・地球儀ワークシート」で活用することで地球儀の使い方を指導することができた。日本の真東が南アメリカ大陸であることを知り、驚いていた。また、地球儀をよく見て、大陸の位置を示すことができる記述が見られた。

学習活動3 海洋について調べる活動

【教師の意図】この活動では、学習活動1で行ったビニル製の地球儀の活動を思い出し、海に当たる部分を想起させた。世界には、三海洋(太平洋・大西洋・インド洋)があることを地球儀で確認し、日本の南に太平洋が広がっていることなどを言い表したり、白地図に名称と位置を記入させる活動を行ったりして、名称と位置を定着させたいと考えた。



【児童の反応】

- ・「日本の南側が太平洋、西側が大西洋、そして、真ん中にあるのがインド洋です。」
- ・「海は、大きく三つに分かれていることが分かりました。」
- ・「大西洋の大と太平洋の太がなぜだか知りたく、気になります。」
- ・「なんで太平ってついて、大西ってつくんだろうと疑問に思いました。」

【考察】日本の南に太平洋が位置していることや三海洋の場所と位置について調べた。調べていくうちに太平洋の“太”と大西洋の“大”がなぜ違うのかという疑問をもった児童が見られ、説明することで定着を図った。

▼本時の板書

「世界の国々と日本」

六大陸と三海洋

陸地：海洋
3：7

地図帳の使い方

- ・さくいんの使い方
- ・方位の見方

緯線

経線

掛図(世界地図)

ユーラシア大陸	北アメリカ大陸	大西洋	インド	太平洋
アフリカ大陸	南アメリカ大陸	オーストラリア大陸		南極大陸

(授業を通しての考察)

今回の学習活動を通じて、地球儀がいわゆる地軸で固定されていないボール型の地球儀であったので、南半球の小さな国々もじっくりと見る事ができた。地球儀の使い方の技能を覚えることで六大陸や三海洋を調べ、日本を基にして、大陸や海洋の名称や位置を表すことができるようになった。そして、紙テープを貼るという活動から地球全周という距離や縮尺の感覚をつかむ第一歩になった。

また、その後の調査で六大陸の名称の定着に関しては、以下の結果であった。ユーラシア大陸の名称の割合が高いのは、名前の由来を指導したことにより、定着率が上がったものと見られる。

今後、授業の中で繰り返し調べさせたり、名前の由来とともに学習させたりすることで名称を定着させていきたい。

定着率調査結果(検証授業後1ヵ月後の事後アンケートから)

